



Via Latina 22

2022年9～10月 314号

総本部よりのお知らせ－マリア会

トーゴ地区での終生誓願式	1
スペイン管区での終生誓願式	2
トーゴ地区での司祭叙階式	3
コートジボワール従属地区での初誓願式	4
東アフリカ地区での初誓願式	4
コンゴ特別地区での初誓願式	5
世界マリアニスト祈りの日 2022年10月9日	5
私たちはまだに奇跡を信じていますか？ 信仰の女性 マリー・テレーズ・シャーロット	6
FMIの新たな総長評議員会 2022年－2027年	8
スペイン、マドリードでのMLC国際会議	9
2022年 被造物の季節（9月1日～10月4日）	10
高齢者のための祈り	10

トーゴ地区での終生誓願式

2022年9月10日、土曜日、トーゴのマリアニスト家族と南カラ教区聖ヨハネ・ボスコ小教区はマリア会のHenri Bawerima Baragou士の終生誓願式を迎える喜びを享受しました。

誓願式はHenri Baragou士の出身小教区、南カラの聖ヨハネ・ボスコ小教区において行われました。Henri士を励ますために出席した他の司祭たちが同席し、地区長Jonas Kpatcha師が式典ミサを司式しました。



Henry Baragou士, 終生誓願を宣立する

Jonas師はその説教の中で、キリスト者の生活の有するマリア的性格について話しました。終生誓願は聖性への目標ではなく、完成への道程における更なる熱意への他のもう一つの刺激であることを思い起こしながら、Jonas師は、より緊密にキリストに従う努力において、誓願者と一般信徒の両者はもっと用心深くあるようにと勧めました。それは全てが正しいように思われる時であり、そして、それは悪霊が私たちを邪魔し、理想から遠ざけるために、見かけの平穏さにその人自身を誘い込むためなのです、とJonas師は話されました。

誓願式は、参列した人々に大きな喜びをもたらしました。参列者は、マリアニスト家族のメンバー、小教区の信者たち、両親、誓願者の友人と知人、またベニンのナティティンゲー市およびトーゴのカラ市のシャミナード学校の教育共同体メンバーたちでした。式典の最後にお祝いの食事が供されました。

スペイン管区での終生誓願式



Enock Pierre士, John Moïse Néré士

2022年9月10日土曜日、Jean Moïse Néré 士とEnock Pierre士がヘレスのピラール小教区で行われた素晴らしい誓願式ミサの中で、マリア会の修道者として終生誓願を宣立しました。参列者の中には

同僚のマリア会修道者、マリアニスト家族のメンバー、カデイスとヘレスの学校の教員たちとスタッフ、そして彼らが2013年にスペインに到着した時から彼らが住んでいた町、ヴァレンシアとサラゴサからの友人たちでした。スペイン管区の管区長Iñaki Sarasua師が誓願式ミサを司式しました。副管区長Miguel Ángel Dieste士が誓願者の呼び出しと、終生誓願するしである指輪を付けるとき、管区長の補佐をしました。

Iñaki師はその説教の中で、この終生誓願宣立という機会が私たち皆にもたらしてくれる喜び、すなわち、MoïseとEnockを決定的にマリア会に迎え入れるという喜びを強調しました。神様からのこの終生誓願の賜物は、キリストの体である教会を形作っている全ての人たちの多様性、歴史、そして文化を強調しています。

誓願式ミサの後、参列者は校庭で軽食を供され、誓願者に乾杯しながらマリアニスト家族として皆で集う幸せを満喫しました。

トーゴ地区での司祭叙階式



左より：小教区の司祭，Georges Gbeze師，
Anselme Agbessi師，Jonas Kpatcha師

2022年7月30日、トーゴ、カラ司教区のJacques Danka Longa 司教はAnselme Mawè Agbessi士をマリア会の司祭として叙階しました。叙階式はトーゴ、カラの聖ペトロ聖パウ大聖堂にて行われました。司教はその説教の中で、自分が遣わされている信徒と共に果たす司祭の役割について強調しました。事実、司祭の役割、それは司祭であること、すなわち人々の中にイエスを現存させることです。

叙階式は大変な盛り上がり敬虔さの溢れる雰囲気の中で行われました。カテドラル小教区や新司祭の出身小教区からの多くの信者たち、マリアニスト家族のメンバー、新司祭の家族のメンバー、そして彼を励ますために来た他の多くの人たちがこれに参列しました。叙階式の後、シャミナード・カレッジが参列者全員をもてなしました。このもてなしは、参列者の皆さんにとって新司祭に祝辞を伝える機会となりました。

2022年7月31日、Anselme新司祭はその初ミサを出身教会であるカラ、チャルーデの「善き牧者」小教区で執り行いました。

コートジボワール従属地区での初誓願式



Arsène Asséké Abe士, 初誓願を宣立する

2022年7月2日、土曜日、アビジャンの国立マリア聖地にて、コートジボワールのマリア会と全マリアニスト家族はArsène Asséké Abeの初誓願を祝う大きな喜びを享受しました。誓願式ミサは、コートジボワール従属地区長Noel Dominique Kouao師の立ち合いでコートジボワール、アベンゲルのBoniface Ziriou司教によって司式され、コートジボワールの各地から来た司祭たちも同席しました。従属地区のマリア会員、Arsèneの家族、他のマリアニスト家族のメンバー、そしてその他多くの友人と知人が誓願式に参列しました。

この初誓願式ミサはまた、Eugène AdingraとGeorges Gbeze両師の誓願25周年を神に感謝する機会でもありました。このお祝いはアビジャンのマリア聖地のSM修道院で分かち合った食事をもって終了しました。

東アフリカ地区での初誓願式



左より：Gabriel Kiranga師，Michael Otieno師，Joseph Maricky士，Gerald Wellem士，Gerald士の家族代表，Joseph Mwaura師，Stephen Wanyoike師，教区の助祭

2022年8月20日は東アフリカ地区にとって大きな喜びの1日でした。マラウイ出身のGerald Wellem士がリムルのマリア会修練院にてマリア会のメンバーとして初誓願を宣立しました。マリア会地区長、Stephen Wanyoike Mburu師が誓願式ミサを司式し、説教を行い、そして誓願を受理しました。

初誓願式はマリア会員、信徒マリアニスト共同体、汚れなきマリア修道会の一人の志願者、そしてマリア会の修練者たちの列席の下、立派に執り行われました。荘厳な誓願式ミサの後、伝統的な音楽とダンスを伴ったお祝いの食事が続き、誓願式の祝いは終了しました。

コンゴ特別地区での初誓願式



Penel Boniche Claide Laho士, 初誓願を宣立する

2022年8月28日、日曜日、コンゴ特別地区のPenel Boniche Claide Laho士がマリア会の初誓願を宣立しました。誓願式は、コートジボワール従属地区のマリア会修道者の年次黙想会の終結ミサの間に、コートジボワールのコルホゴ教区のラタのロザリオの聖母センターで、行われました。コートジボワール従属地区長、Noël Dominique Kouao Akobé師が誓願式を執り行いました。

世界マリアニスト祈りの日 2022年10月9日



病人の快復であるマリア礼拝堂
スカルダフェット

全世界のマリアニストが世界マリアニスト祈りの日に集まって祈ります。今年の式典は2022年10月9日、日曜日に行われ、例年通りこの祈りは全ての枝、国々、そして文化圏のマリアニストを霊的に結び、私たちの御母マリアに彼女の子供たちのために執り成して下さるよう祈ります。私たちは一緒にスカルダフェッロの“Maria Salus Infirmorum”（病人の快復である聖なるおとめマリア）聖地に目を向けます。スカルダフェッロはイタリアのヴィチエンツァ市の近くにある町です。この聖地の興味深い歴史の要約は次のサイトで参照出来ます：www.marianist.org

1993年以来この聖地でのマリア会員の存在は大きな賜物です。



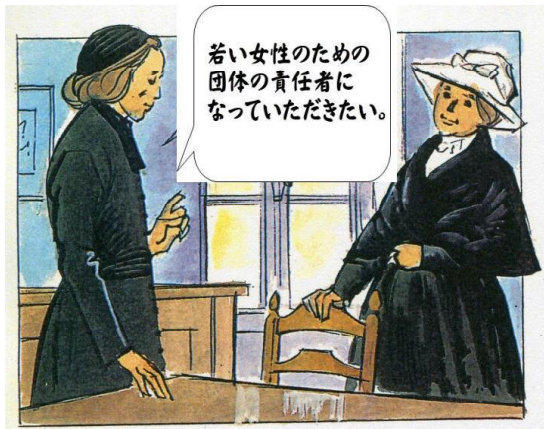
今年のご承知のようにCOVID-19が未だ治まっています。しかしながら私たちは世界平和のためにも祈ります。それゆえこれは祈りの中で全マリアニストが一つになり、この災難を終わらせ、そして世界に平和をお与えくださるようおとめマリアに祈願するのは全く時宜に合っています。

上記のwebsiteはこの毎年の行事を行うための幾つかの提案を行っています。私たちはどんな方法でも良いのでこの機会に注目するよう全共同体に推奨します。他の共同体や枝と物理的に集まる事が出来なくても皆さんが祈りで霊的に、またバーチャルで一つに結ばれるよう願います。

病人の快復である聖なるおとめマリア様、私たちのためにお祈りください！

私たちはまだに奇跡を信じていますか？ マリー・テレーズ・シャーロット 信仰の女性

1820年、ボルドーのラ・ミゼリコルドには200名以上の女性が生活していました。ラ・ミゼリコルドの事業は必要とされましたが資金は不足していました。≪3000フランを工事請負人に支払う必要がありました。当然のことながら、工事請負人は院長であるマリー・テレーズが支払い期日には代金を支払うものと信じていました。“いいえ”、と彼女は言います、“神様が真の支払い人です。支払い期限を3ヶ月後としましょう”。≫



3ヶ月が経ち、そして、その重大な支払いの日に、テレーズ・ラムルスはアビラの聖テレジアの5ソル（当時5ソルは乗合馬車の乗車料金）さえも持っていませんが、この事実も彼女を動揺させません。願いを込めた断食が共同体に要請されます。それから、9時に彼女は修復された聖堂に籠ります。彼女は自分一人だと思いますが、運よく、聖堂奥の作業用足場にいた2名の工事責任者が全てを見聞きすることになります。これが事の顛末です：

中央通路の石畳に平伏して、マリー・テレーズは長い礼拝の祈りに没頭します。それから彼女は身を起こし、大きな声で言います：「御父よ、あなたが3000フランを支払うのは今日なのです；あなたの名誉がかかっています；あなたは約束されました。私がお願いしたことを叶えてくださるでしょう？」

自分を呼ぶベルが鳴るのではないかと彼女は応接室の脇で耳をすまして待ちましたが、何の音もしません。そこで彼女は立ち上がり、祭壇まで行き、そして今度は涙声で、祈りを再開します：イエス様、私の祈りが聞こえましたか！あなたは時々、子供の言うことが聞こえないふりをする母親のように、聞こえないふりをなさるのを私は知っています。いいですか、あなたは3000フランを支払う義務があります；11時に支払うことになっていると私は言いました；約束を守ってください！

彼女は再び耳を澄ましますが、呼び鈴は未だ鳴りません。それで彼女は聖域に入り、祭壇の階段を上ります。階段の上で、彼女の感情は高ぶり、左手で、呼吸が出来ないほど激しく波打っている心臓をぎゅっと押さえなければならぬほどです。右手で、聖櫃の扉を叩きながら言います：イエス様、（こんなことをして）許してください、けれども、私をこんなに大胆にさせているのはあなたです。あなたは言われました：叩きなさい、そうすれば開かれる。もし私が明日までここに止まるべきなら、私はあなたが3000フランを支払って下さるまで叩き続けます。主よ、私は叫びます、私の叫びを聴いてください！

この3度目の催促の祈りが終わるやいなや、彼女は応接室で彼女を呼ぶベルの音を聞きました。彼女は急いで聖堂を出ましたが、よき御父に丁寧に挨拶し、そしてお礼を言うためにまた戻って来ると約束しました。

応接室には見知らぬ男性がいて、その人はマリー・ラムルスがパリ旅行中に知り合いになったM伯爵夫人について話します。伯爵夫人は死去しており、この訪問者は彼女の遺志による遺産贈与の一つを果たすために来たのでした。マリー・ラムルスは遮って言いました；“もし神の名にかけて私が約束した3000フランをあなたを通して御父が送ってくださらなかったら、私は驚いたことでしょう”。

ほほ笑みながら、この見知らぬ男性は自分の財布から3000フランを取り出し、それを院長に手渡しました。“有難うございます、御父よ、あなたは信頼できる方だと私は知っていました”。“院長様、

お待ちください、さらに3000フランありますよ！”

今度は、マリー・テレーズが少し当惑し、それから、心からすすんで彼女は言いました： そういうことなら、御父よ、これから私は必要なものの半分だけお願いすることにします。

マリアの伝道者、no 174、8月—9月1925年、p.135-137

FMIの新たな総長評議員会 2022年-2027年

2022年7月にローマで開催されたFMI総会は新たな総長評議員会を選出しました。7月22日に韓国のシスターSusanna Kimが新しい総長に選任されました。7月23日には、3名の総長補佐が選任されました：霊性局長としてトーゴのシスターPrudence Adoki、教育局長としてスペインのシスターClotilde Fernández del Pozo、そして財務局長として韓国のシスターMicaela Lee Pok Sunです。

新しい評議員会の使命のため祈りましょう。

 <p>Sr. Susanna Kim 総長</p>	 <p>Sr. Prudence Adoki 霊性部長</p>
 <p>Sr. Clotilde Fernández del Pozo 教育局長</p>	 <p>Sr. Micaela Lee Pok Sun 財務部長</p>

スペイン、マドリードでの MLC 国際会議

2022年7月23日から30日にかけて、第8回信徒マリアニスト共同体国際会議がスペイン、マドリードのグアダラマにて開催されました。この会議のテーマは“兄弟愛を共に夢見よう”でした。

この会議には、異なる国々のMLCの代表者たちをはじめ、幾つかのMLCに同伴しているアドバイザーも参加しました。残念ながら、何人かの代表者は必要なビザを取得できず、最後になって参加出来ませんでした。



左より：Boris Giambanco (会長), Mercedes de la Cuadra(ヨーロッパ),
Lilliam Valle Garagorri(ラテンアメリカ), Kiyoshi Hirata (アジア),
Matt Dunn (北米、アイルランド、オーストラリア), Atsè Yao Narcisse (アフリカ)

初日はミサで始まり、その後国際チームメンバーがそれぞれレポートを発表しました。この会議の焦点は、次の4年間に取るべき活動方針について一緒に考えることでした。この会議の結果わかったことは、世界の様々な地域間での現実の違いを考慮すると、すべての地域に共通の方針を設定するのは容易でないということでした。それで会議の結論は、地域ごとに活動する、ということになりました。注目すべきことは、会議の一つのセッションが最も若いメンバーたちの声を聴くことに充てられたことで、彼らは自分たちのマリアニストとしてのアイデンティティを明白に示しました。さらに、これまで北アメリカ・ゾーンに属していたアジアが、新しくアジア・ゾーンとして創設されました。

最後のセッションは今後4年間の新しい国際チームの選出に宛てられました。選出結果は下記の通りです。

MLC国際委員長：	Boris Giambanco (スペイン)
北アメリカ地区：	Matt Dunn (アメリカ)
ラテンアメリカ地区：	Lilliam Garagorri (ペルー)
ヨーロッパ地区：	Mercedes de la Cuadra(スペイン)
アフリカ地区：	Atsè Yao Narcisse (コートジボアール)
アジア地区：	平田 潔(日本)
霊的助言者：	Félix Erdocia師, SM(スペイン)

2022年 被造物の季節 - (9月1日～10月4日)

“毎年、9月1日～10月4日、キリスト教家族は私たちの共通の家を守るための世界的な祈りと活動の行事に一致します。全世界から集うキリストの弟子として、私たちは被造物を保護するようにとの共通の呼びかけを分かち合います。私たちは等しく創造された者であり、また神が創造されたすべてのものの一部をなしています。私たちの幸福は地球のそれと緊密に繋がっています。私たちの共通の家とそこに暮らす生きとし生けるものを保護するためのこの機会に恵まれています” (被造物の季節 諮問委員会)



今年のこの期間のテーマは“被造物の声を聴こう”です。この諮問委員会のメンバーは私たちをこの期間に加わるよう私たちに呼びかけています。リンクは次の通りです：Season of Creation.

この期間をどう過ごしたらいいかを教えてくれる小冊子を、皆さんは最初のページでダウンロード出来ます (黙想、活動、そして祈り)

一緒に、私たちの共通の家の世話をしましょう！

このようなテーマの枠内で、私たちは権利と良心の有する普遍的価値として、脆弱な人々、危険に晒されている自然的、社会的な生態系を優先させる選択を認識しなければなりません。地元、地域、国内、あるいは国際レベルなど、私たちが関わる場所がどこであれ、全人類に益する根本的な技術革新の資源として、私たちは、あらゆる開発あるいは技術革新のために、貧しい人々と最も脆弱な人々を優先させる選択を支持し、行動し、そして主張しなければなりません。

高齢者のための祈り



私たちは高齢者のため、特に私たちのルーツと記憶を代表している私たちの高齢者会員のために祈ります。彼らの経験と英知が希望と責任をもって将来を目指す若い会員の助けとなりますように。

下記の祈りは、祖父母と高齢者のために、教皇庁の信徒・家庭・いのち省によって提案されたものですが、各高齢会員は単独で、あるいは他の会員と共に、どこでもどんな時でも唱えることができます。

主よ、長寿の恵みを感謝いたします
あなたは、ご自分により頼む者に、
いつも豊かな実りをもたらしてくださいませ。

主よ、あきらめ、希望を失ったことをおゆるしてください。
しかし、わたしの力が衰えるときも、
わたしを見捨てないでください。

あなたがわたしに与えてくださる未来に、
そして、わたしに託してくださる使命に、
希望のうちに心に向けることを教えてください。
あなたへの賛美の歌を終わりなく歌うことができますように。

孫たちと、
あなたに助けを求めるすべてのか弱い子どもたちを、
愛をもって守るために、
わたしをあなたの「優しさの変革」を実現する熟練した職人にしてください。

主よ、世界を孤独から救うために、
教皇フランシスコを支え、
あなたの教会をお守りください。
わたしたちの歩みを平和の道へと導いてください。アーメン。

最近の総本部通信

- 計報：21-32号
- 8月1日：総指導者会議に関する総長評議員会からの報告書、3か国語にてマリア会の全メンバーへ送付
- 9月6日：世界マリアニスト祈りの日 - 2022年10月9日、3か国語にてマリアニスト家族世界評議会からマリアニスト家族全員に送付
- 9月14日：Communication 2：2022年の10月、マリアニスト教育活動のオンライン会議のための実践状況と登録申込方法、3か国語にて教育局長Maximin Magnan士からマリア会の全メンバーへ送付

総本部日程

- 9月20日~23日：総長André-Joseph Fétis師と教育局長Maximin Magnan士がスイス地域共同体を訪問
- 9月29日~10月1日：総長André-Joseph Fétis師と教育局長Maximin Magnan士がフランス地区設立を機会にフランスを訪問
- 10月2日~11月4日：スペイン管区への総長評議員会の視察訪問

メールアドレスの変更

新しい全emailアドレスは次の国際名簿発行時に一緒にお届けします。2022-2023 (77号)